

第 12 回定例教育委員会 会議録

開催月日 令和2年12月2日（水）

開催時間 午後 3 時 00 分から午後 3 時 45 分まで

開催場所 防災新館 1 F オープンスクエア

出席委員 教育長 齊木 邦彦
教育長職務代理者 三塚 憲二
教育長職務代理者 佐藤 喜美子
委員 松坂 浩志、岡部 和子、小澤 幸子

出席職員 教育次長 小林 厚
教育監 嶋崎 修
理事 降旗 友宏
働き方改革推進監 小俣 義一
次長（総務課長） 小田切三男
福利給与課長 小尾 一仁
学校施設課長 藤原さつき
義務教育課長 中込 司
高校教育課長 荻野 智夫
保健体育課長 上田 直人
総務課総括課長補佐 土橋 信也
総務課課長補佐 入倉 俊幸
総務課副主幹 河野 奈美
総務課主事 數野 浩己

高校教育課
主幹・指導主事 村田 繁
生涯学習課
総括課長補佐 望月 勝一

傍聴人 1 名

報道 1 名

会議要旨

〔 教育長開会宣言 〕

1 議 案 な し

2 報告事項

(9) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）について

〔説明〕 高校教育課

三塚 委員 令和2年度に身延高校ですよね。それでその身延高校では協議会を3回計画していると。その身延高校でその後どういったことがコミュニティ・スクールで議論になって、それに対して学校側はどのような回答をしているのかということは、当然教育委員会としては把握をしていると思うんですけども。その分かる範囲を教えてください。と言うのは、従来の学校評議委員会よりも踏み込んだ形になっているじゃないですか、このコミュニティ・スクールというのは。だから従来のものと同じように、学校がやったものをただただ評価をしているのであれば、これを設置した意味は全くないわけで、ですからそのところが身延高校、当然年3回ということは、もう2回ぐらいは少なくとも終わられていると思うので、その状況がどうなって、どんなふうになるのかということをちょっと教えていただければありがたいと思っています。

荻野 課長 既に協議会2回行われてございます。ただ、今年度はコロナウイルスの関係がありましたので、第1回につきましては書面開催という形になりました。

- 荻野課長 そこでは組織の会長、副会長の選出、それから学校経営方針、それから教育目標を進めるための方策、協議会の編成等について、書面開催という形ですが承認を得たというふうに報告を受けております。それから、第2回の協議会は10月に行われてございます。その際には、委員の皆さんには授業参観、それから生徒を交えた意見交換会等を行ったと聞いております。その協議会におきましては、その後学校の授業参観、それから生徒意見交換会に対するご意見、講評等をいただいたあと、学校改善アンケートの結果報告、それから授業アンケート等の結果報告が行われました。それから話し合いの中で、意見として2つ出てきまして、身延高校と南部町とのもうちょっと話し合いの場を設けてもらいたいという意見が委員から出たということです。それからもう1つ。協議会と高校生の生徒が一緒になってどんなことができるのか、ぜひ検討してもらいたいという意見が出たというふうに聞いております。学校のほうでは、まだちょっと協議会が行われて時間があまり経っていないというところもありますが、特に南部町との話し合いについてはまだこれから計画をする予定ということで、ウイルス等の関係もありまして、実施はまだできていないと聞いておりますが、今後計画していくと。あと、南部町から通っている生徒の足と言うんですかね、通学の利便性について何か検討ができればというようなことを双方で考えているということでございます。以上でございます。
- 三塚委員 私、これ従来のやっぱり協議会とはちょっと違って、少し踏み込んでいますよね。だからコミュニティ・スクールの委員からの、そういういろんな提案があった時に、これを今度受け取る側の学校側がちゃんとしっかりした回答を出して、それに対して回答を出して形を作るということ。あと1回の委員会があるわけなので、そこをしっかりとやっていただければ、このあと令和3年度以降の新しい学校の、一つのやり方のパターンになってくと思うので、そこをやっぱり県の教育委員会のほうから、しっかりその辺の教育をしていただいて、形上だけのコミュニティ・スクールだったら全く意味もないことなので、うまくこの形付けられて、それが一つのモデルケースになるように、できればこっちサイドで指導をしながらやっていただければありがたいなと思ったので、よろしく願います。
- 荻野課長 ありがとうございます。また学校としっかり連絡を取り合いながら進めていきたいと思えます。
- 佐藤委員 願います。
私も身延高校がどんな既に成果というようなことでお話を聞かせていただければなと思ひまして。今、大体概略は分かりました。学校側からも、この組織にかなり積極的に、こんなふうにして欲しいというような要望事項を打ち出していくような方向で動かれると、コミュニティ・スクールもかなり意味が出てくるかなと思ひます。今、南部町と話し合いを持って欲しいというのは中高一貫の・・
- 荻野課長 それも含めてですね。今、南部中とも中高一貫で進めておりますので・・。
- 佐藤委員 そうした時に、生徒さんの送迎というようなことをコミュニティ・スクールのメンバーの方に、こういう今困っていることがあるんだというようなことで、お力を借りるような形に、学校もどしどし地域のお力をお借りしたいというふうな方向で動かれることを期待しています。そんな成果によって、また令和5年度以降増えていって、学校応援団がたくさんできるといいなというふうに思っています。よろしく願います。
以上です。
- 岡部委員 まずコミュニティ・スクールというのは、地域による、あるいは地域とともに、地域と歩むというのが大きな趣旨だと思います。そういう意味で、やはりこれからコーディネーター専門技術を持つボランティアの人材バンクを教育委員会がしっかりと持って、何か言われても過疎化であっても、都市化であっても提供できるようなことも必要な、なんて思うんですが。

岡部委員 まず今回、このろう学校のことについてですが。支援学校はないかと去年はちらっと思いながらも、やはりこのろう学校については、地域と連携したものを即校長先生たちはおやりになっていたり、例えば盲学校もそうですし、被験者が必要になってきた時には、盲学校のところには必ずマッサージとか、そういう時には地域の方を呼んで、まあやらなければならないということもあったり。特にろう学校についても同じように、卓球で非常に有名などころですから、そういうようなところへ卓球をどういうふうにするか。あるいは卓球も大変上手なので、それ地域の小学校や中学校と一緒に対戦をするとか、そういうこともなさっているの、あっ、これはやはり地域と連携した活動の実績があるなどということでもうれしく思ったというところ。白根高校と吉田高校のことについてお聞きしたいんですけども。白根高校もそうなんです、やはり課題は絶対あったと思います、見に行ったところで。その先進校のメリットとデメリットがあるけれども、その課題が分かったのでしょうかということを知りたいです。白根高校と吉田高校の方たちが先進校に行って、こういうところはよかったけども、こういうところは課題かなというところはあったのでしょうかという質問です。以上です。

荻野課長 ちょっと詳しいことは存知あげないですが、おもにはやはり設置準備の段階で行っておりますので、具体的にどんな委員の方をお願いしているかとか、地域との繋がりをつくコーディネーターの方が必ず入っていることになっています。その方をどのような方をお願いしているかとか、基本的にはその辺が主なところだと。あとは具体的にどんな実践をしているかというのを聞いてきたというふうに、概略ながら、はい。

岡部委員 ありがとうございます。最初に申し上げたように、やっぱりその辺が私も気になっていたの、コーディネーターや専門技術を持つ、そういうようなボランティアの人材バンクが必要かななんて思ったので、ちらっとそういうことを、ひょっとしたらそれが課題かなと思ったのでお聞きしたんです。ありがとうございます。

松坂委員 幾つか確認で結構なんですけど。これ29年度から努力義務ということで、今回初めて山梨県では実施に入るということでよろしいでしょうか。

荻野課長 高校としては、はい。

松坂委員 29年からというのは、何か準備にちょっと時間がかかったような気がするんですけど。結構大変な準備があったのでしょうか。それと、今から令和2年度までで4校ということですので、10パーセントということでの数が、何かそんなに多くないと思えるんですけど。結構大変だったのかなということが、ちょっと確認でいいんですけど。そして今後方向付けとして、もっとたくさんに広げていくのか、全校に広げていくつもりなのか。その辺のお考えは今現在お持ちかどうかだけ確認させてください。

荻野課長 その経緯のところにもありますが、まず県といたしまして、学校運営協議会に関する規則を令和元年度に、この法改正があってから県としての規則がございましたので、その規則を作るのに令和元年度ということ。あと1年間の準備を経て実際に始めるということになってございますので、身延高校が元年度に準備を変更して始めてということで、ちょっと時間がかかっていました。それから今後についてですが、まずは4校の設置。身延高校も今年から、あと3校はまだ今現在できておりませんので、これからスタートするところですから、まずはその設置校の成果等を、どんな学校運営協議会としての成果が出るかということをしかり教育委員会としても確認した上で、またそのあとの計画については検討していきたいというふうに、現時点では思っています。

- 松坂委員 では最後に、高校側のほうで設置してくださいということで進めているんですか。それとも教育委員会のほうで選定した学校を進めているというふうな進め方なんですか。どちらの進め方ですか。
- 荻野課長 ここまでは学校のほうから申出をしていただいております。
- 松坂委員 学校のほうから、うちはぜひ今年やりたいというふうな意向があると、そういったところを優先的にやるというような考えでしょうか。
- 荻野課長 そうです、そのとおりです。
- 松坂委員 分かりました。では、よろしくをお願いします。
- 岡部委員 校長先生たちは本当にこういうことについては理解をしていると思います。やっぱりリーダーシップを取っていると思います。一般の教員の育てなければいけない養成とかで、研修とかというのがあるのかどうかということちょっと聞きたいんですけども。やはり教員たちにやっぱりそういうコミュニティ・スクールの意義や、そういう理解を深めていかない限りは、学校はやはりどんどんどんどん人材バンクの方が来た、あるいはボランティアの人が来た、学習ボランティアが来たというようなことで、学校側は大変うれしいことですが、教員たちがどういうふうに捉えていくかということもあるので、そういう研修の場があるのかどうか。あるいは育成しようとしているのかどうかということをお教えください。
- 荻野課長 特に具体的にコミュニティ・スクールに特化した研修というのは現時点では行ってはございませんが、学校評議委員会もからめます。学校評議委員会というのは評価をする会議ですので、今回も運営に携わることで、学校側からやはりかなり大勢の教員がその運営協議会など、そういうものに関わる機会があったり、あるいは報告も多岐にわたりますので、各主任が参加したりということで、関わる人数は確実に増えていて、そういう方はこの趣旨とか、そういうものを理解はしているのではないかと思います。
- 岡部委員 ありがとうございました。
特化することはないと分かりましたので。まだそれは他の恐らく教員職員会議等で学校側がしっかりしているかと思えます。
ありがとうございました。
- 小澤委員 1つ質問です。
現在進んでいる方向の事例で結構ですけども。委員さんは、これに携わる委員さんの中で保護者というのもあるようなんですけども。どこでやってくださっているものなのか。こういうのができたから、ちょっと押し付け的に誰か出さなければいけないみたいな感じで決まっているようなものなのか。ちょっとその辺が分かれば教えてください。積極的な参加で委員さんが決まっていくのであればいいと思うんですが、どうしても出さなきゃいけないみたいな感じで、またそれを決めるのがすごく重苦しい雰囲気の中で保護者が駆け引きをして決めているような、そういうふうな空気でないかなと思うんですが、どんな感じなのか分かれば。
- 荻野課長 設置の段階で、学校だけではなくて、地域の賛同を得るということを条件にしておりますので、あらかじめ地域と、準備委員会がありますが、その地域と話し合った上で設置に向けて動いていますので、本当に詳細のところは把握しているわけではありませんが、積極的に参加していただいていると信じています。

佐藤委員 去年でしたか、大月市で行われた1日教育委員会で、吉田高校のPTAの方がすごく熱心で、私たち何でもやりますからというような気持ちで発言されていたのがすごく残っているんですけども。そういう人たちと一緒にいい方向に進めていただければと思います。何か逆に、学校に何か無理難題を言われては、また学校も大変なので、その辺のところをうまくバランスを取っていただいてというふうに思いました。
よろしくをお願いします。

荻野課長 ありがとうございます。

【了知】

3 その他報告

(12) 令和4年度採用 山梨県公立学校教員選考検査について

〔説明〕 義務教育課・高校教育課

三塚委員 なかなか教員になる方が少なくて、倍率が下がってきている中で、何とか枠組みを広めてというところはよく分かるんですが。最近やっぱり不祥事が非常にいろいろ多いじゃないですか。だから教員の質の低下に結び付くようなことになると困るので、入れる時になかなか難しいですよね、この人の資質がどうなのかと。そこまで僕らも判断できないところがあるんですけども。なるべくそういった質の低下にならないような、例えば入れたあと教員の教育をしっかりやるようなシステムを、これまで以上に強く強化するとか、そういったことをして資の低下にならないような策を講じていかないといけないのかなというふうに思っていて、その辺また検討していただいて、やっていただければありがたいなと思っています。

中込課長 初任者に対しては、あらゆる研修をかなり時間数かけてやっているわけですが、ご指摘のとおりかなり不祥事も続きましたので、そういう点では入れたあとの研修ということで、特に全般的なものも、服務規律もそうですけれども、それと合わせて細かいところでSNSですとか、そういうふうな様々な細かい指導を加えていきたいというふうに思っております。

佐藤委員 ありがとうございます。
選考方法の改善ということで、いろいろアイデアその他他県の状況もよく調べていただいて、効率的な改善をしていらっしゃるというふうに思いました。その中で、今後の予定なんですけど、これは山口県でやっていたと思うんですけど。山口県では教員になりたいという教員志望者が1,300人ぐらい登録者がいるようなんですけど。サポートメールという形で、積極的に県から年間20回ぐらいいろんな情報を発信しているというのを聞きました。何かそういう形で積極的に、ホームページを自分から見に行けばいいわけですが、少しでも教員になろうというお気持ちのある方たちには、そんな形でサポートメールというようなものを発信していったらいいかなと思いましたが、それで発言させてもらいました。以上です。

中込課長 情報発信ということで今検討しておりますけれども、その辺もぜひ進めるような体制が取ればということをおっしゃっています。それと合わせて、実施要綱については今年度は郵送等だったんですけども、昨年度までは持参が基本だったんですけど、来年度はコンピュータによる申請を今検討しております。それで行けるような体制を整えている状況でございます。

- 岡部委員 教えていただきたいんですけども、50歳以上の22名という年齢層を、59歳の人がいるのがどうかという、その辺のところをちょっと、年齢層を教えていただきたいことが1つと。それから2つ目ですが、ここに書いてある下のほうの概要の所の③ですが、これは専門教科のことですよ。保健体育科の先生のことですよ。今、実際に体育大学も実技をやらない試験をやっているわけですから、このことについては特に水泳については、ほとんどもうプールもないようなというようなこともあるので、これは非常にいいことだなというふうに思います。ついて、いろんな面で、やはり実施しない理由というのは、もう、うんもすんもなく、恐らく世間一般的にそうなのでいいと思います。①のところで一定の基準とおっしゃった。その一定の基準って何なのかということで、翌年度1年のみ適用ということが一定の基準ということなんでしょうか。
- 中込課長 2点の59歳ですが、59歳の方もいらっしゃいます。今も期間採用をやっている方ですので、このあと再任用、65まではやるという意思があるという見込みで受けているんだというふうに思っております。全て確認しているわけではございません。あと、体育のほうですが1次検査の免除ということで。これは一定の基準というのは、ある程度得点で切ろうというふうなことも思っておりますけれども、それよりも特に高校なんかは1名採用というふうな教科がありまして、例えば1名採用で一次検査を4名通した場合、3名は二次で落ちるわけですけども、その3名を翌年に全て繰り越してしまうと、新規の方の枠がほとんどなくなってしまうので、そういう定数が少ないところについては、基本定数と同等の数までというふうなことは基準とすれば、基準というわけではないですけども、そのぐらいにしないと翌年度の受験者の平等性という形では難しいかなということで、その辺りでは人数の制限をかけていこうというふうに思っております。
- 岡部委員 ありがとうございます。よく分かりました、一定の基準が。もし採用がなかった場合も、その一定の基準は利用するわけですね、再来年には。
- 中込課長 そこは検討していきたいと思いますが、基準が1年ということなので、ここをどういうふうに準用するかということで検討していきたいと思っております。
- 岡部委員 ありがとうございます。
- 松坂委員 これ、枠を変更することでもって人も多く集まるんじゃないかというふうな趣旨が一つあると思うんですけども。それだけでは私、難しいように思うんですね。もっと教員になりたいと思う人たちを、ここにポスターとかパンフレットを配るとかということが、一つは大勢応募してもらおうということなんだけど、何かもっと別な知恵を絞らないと、教職を取ってもらわないとまずだめですよ。だから教職をどうやって増やしたらいいかということと。それと何か、例えばなんです、山梨県の人が山梨県の教員になるための特別枠みたいなものか。まず、なろうとする人を増やす。その人たちが山梨県の教員に全員応募してくれるような何か施策を打っていかないと、単純に枠だけどんどんどんどん増やしていくと、三塚先生が言うように何か資質が落ちていく方向にいったら、今度それとの追いかけてこなくなってしまいますので、何かそれを一つ今後、もう来年の間に合うとしたらもうポスターとか、何かそういったもので変えるのか。何かそれをぜひ考えていただけるようにしたいいけないんじゃないかというのがちょっと私の思うところです。よろしくをお願いします。

- 中込課長 はい、分かりました。明確なお答えになるか分かりませんが、もう一つ、昨年度からやっています山梨県の教員になろうというふうなフォーラムをしております、その中ではもう少し若年層からということで、高校生まで来ていただいて、昨年度は県立の図書館でやったわけですが、今年度はかなり人数を絞りますので、それ以外にもオンラインでその会の様子を視聴していただいて、双方向のやりとりをしていこうというような取り組みを今年度もやるつもりでおります。
- あと、もう1点。こちらは県の取り組みではないんですが、山梨大学で来年度から山梨県の教員になるという枠で推薦枠を取っております、その中で本県の義務教育課の指導主事ですか、私どもが講座と言うんでしょうか、その中でどんな教員を求めていくかというところで、その辺の含みですとか、そういうことも含めて指導しながら、意欲付けも含めて対応していくということで、大学との連携も進めていこうということで今考えています。
- 松坂委員 それ実施した時に、何かアンケートって取っているんですか。
- 中込課長 アンケートを取っております。
- 松坂委員 それは何か別に書くアンケートをやっているんでしょうか。
- 中込課長 昨年度はそうです。昨年度は会場でしたので、書くアンケートを取りましたけれども。本年度については、ちょっと今センターのほうとやりとりをしますので、その辺が十分反映できるようにしていきたいと思っております。
- 松坂委員 例えばグーグルのアンケートを採用するとか、何かそうやって常に何か集まったらアンケートを取って、市場の反応か何かを見ないと、やっていることが正しいかどうかということ、また変える必要があるとか、何かそんなふうなことをスピードを結構速めないといけないかもしれないじゃないかなというふうに思います。よろしくをお願いします。
- 中込課長 何か講師として、本県で教員をやっている方々が講師ということで、今勤めている方で、その中でも例えば本県出身で他大学に行っているけど戻る方。全く他県の大学に行って、山梨には縁もゆかりもないけども、こちらへ来るIターンの方。様々なパターンの教員をリストアップして、その中で情報交換しながら山梨の魅力を伝えていこうという形のフォーラムをしていますので、またおっしゃるとおり素早い反応が取れるようにしていきたいと思っております。
- 松坂委員 がんばって。よろしくをお願いします。
- 岡部委員 今の中込先生がおっしゃったように、本当に私たちが学校訪問した時に、きちっと掲示物に山梨の先生になろうなんていうのが貼ってありました。ああいう啓蒙啓発というパンフレットって非常に何かうれしくなったので、ぜひまたこれからも続けて各学校にやっていったら、それは城西高校に貼ってあったんですけども。
以上です。

小澤委員 なぜ教員のなり手が少ないのかという、その根本的な理由について、やっぱりよく検討して、対策を取っていくというのが、そもそも何でなり手が少ないのか。なりたい人がなれないじゃなくて、というのもあるのかもしれませんが、そこをよくつきつめて作戦を立てて広報していかれたらいいなと思います。

先ほどちょっとアンケートの話が松坂委員がおっしゃってくださったんですが、この件に関したことはありませんが、学校の中でアンケートを取ると、やっぱり校長先生とか上の先生とかの目を経て、そして教育委員会のほうへあがってくるんだと思うんですが。そうするとちょっと答えにくかったりとか、付度しちやったりということが、やっぱり社会生活を営んでいるとあるんじゃないかと思うんですね。なので、アンケートを今気軽に取れるような仕組みがあるし、先生方皆さんお忙しいでしょうから、ぜひそういったものを活用して、現場の生の声が吸い上げられるような仕組みを取られたらいいなと思っています。

以上です。

中込課長 ご指摘のとおり、アンケートが様々な目を通らなくても得られるようなということで、QRコードでフォームを発信して返すようなシステムも検討していますので、できるだけ対応していきたいと思っています。

【 了 知 】

4 その他

出席委員から、会議の周知の方法について意見があった。委員からの意見と事務局の回答の概要は次のとおり。

三塚委員 この前の山日に投稿のあった、総合教育会議の周知があまり働いていないということがありましたので、今回やっぱりこれ教育委員会のホームページのほうにもしっかり載せるように取り計らっていただき、できるだけやっぱり周知を図ることが必要なので、ぜひその対策をしっかりとってください。

小田切課長 その辺しっかりと対応をさせていただきたいと思っております。

[教育長閉会宣言]

以 上